

## 令和4年度 事業報告

本学園の主要財源は学生生徒等納付金収入、及び国・地方公共団体からの補助金収入だが、学生生徒等納付金収入の安定化には、確実な学生確保が重要となっている。また、学生生徒等納付金収入以外に、各種補助金や外部資金の導入も重要であると考え、受託研究事業、科学研究費補助金、教育研究振興募金事業等の外部資金の獲得に積極的に取り組み、複数の外部資金を獲得した。

北海道情報大学（以下「HIU」という。）においては、近年のAIやICTに関する社会的な関心の高まりと本学の高度ITプロフェッショナル人材育成に関する取り組みが認知され、令和5年4月の入学者数は定員420名を超え、開学以来最高の在籍者数を獲得することができた。

通信教育部においても、オンライン学習環境のDX化や教育センターとの連携推進により、正科生A、B及び科目等履修生の入学者数は順調に推移した。

北海道情報専門学校（以下「HCS」という。）においては、学生数が道内最大規模を誇り、情報系分野の「資格実績」、「就職実績」、「コンテスト」などの各実績が認知され、入学者は入学定員に近い学生を獲得することができた。また、ICT教育の伝統と実績を有する専門学校として、「産・学・研」連携による最新技術・最先端の教育により、情報処理技術者試験で全道一位の合格実績を上げることができた。

就職実績はHIUが96.5%、HCSが97.7%と、両校ともに高い就職率となった。

令和4年度に本学園が実施した主な事業は、以下のとおりである。

### (1) HIU

- ① 建学の理念である「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を継承しつつ、「Quality First」をミッションとして策定した「HIU Vision2025」を反映した「第3期中期目標・中期計画(2021年度～2025年度)」の2年目として、2022年度計画を確実に推進した。
- ② 多様な学生を卒業に導くために、IR（インスティテューショナルリサーチ）推進室を設置して、学生の単位修得や休学・退学状況等のデータ分析を行った。また、より学びやすく分かりやすいカリキュラム編成にするとともに、国際IT人材を育成すべく、令和6年度のカリキュラム改正を行った。
- ③ 教育におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）を図るため、eラーニング推進センターを発展させたDX推進センターを中心に、臨床工学専攻の授業でVR（バーチャル・リアリティ）を使って人工透析回路の組み立てシミュレーションを行うなど、最新の技術を教育や研究に利活用した。
- ④ 校舎保全5ヵ年計画の2年目として、松尾記念館や男子学生寮の外壁補修、体育館横の外構工事、エレベータの更新などを行った。

- ⑤ 教室のAV設備の最新鋭化やDXの基盤となる学内無線LANの増強や音響機器の導入、図書館の備品購入など、最先端の「情報」を学ぶ大学として教育設備の充実を図った。また、学生の自習や部活動のミーティングを行えるスペースとして厚生棟2階にHIUラウンジの整備、トレーニング室の機材更新など大学全体で教育環境の整備を行った。
- ⑥ 入試広報活動においては、特にシステム情報学科と情報メディア学科において、学力中位から上位層向けの情報発信を強化した。また、進学相談会や高校内ガイダンスなどの対面行事に注力しつつ、コロナ禍を経て「リモート」が身近になり、高校生の動きも多様化していることを踏まえ、ホームページやSNSなどインターネットを活用した情報発信強化にも引き続き取り組んだ。その結果、定員の1.1倍の学生が入学し、開学以来最高の在籍数を昨年に続き更新した。
- ⑦ 通信教育部においては、これまで進めてきた試験のオンライン化を一層進めるとともに、チャットボット(自動応答機能)導入や動画版の補助教材を新たに作成するなどの学生サービス向上を図った。また、教員免許取得を目指す学生を中心に広報活動を行ったことで、科目等履修生の入学者を増やすことができた。
- ⑧ 医療情報学部及び健康情報科学研究センターがコンソーシアムメンバーとして参画する、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「研究課題：食を通じた健康システムの確立による健康寿命の延伸への貢献」(2018年度～2022年度)において、食と健康の関係性解明、並びに食の機能性評価「食の臨床試験」などの研究を推進した。事業最終年度の2022年度において、本研究における成果「食と健康の関係性解明」に関わる論文投稿やシンポジウム発表、及び、企業と実施した「食の臨床試験」結果をもとにした特許出願など、学術研究並びに産学連携に関わる成果を挙げた。本取り組みを通し、臨床試験に参加した地域住民への健康アドバイスや研究成果の一部をホームページや紙面媒体などで公開することによりHIUの研究活動についてアピールを行った。

## (2) HCS

- ① 募集活動では、『Quality First』を念頭に、安定した学生確保を実現するために、高い実績をあげている「資格実績」、「就職実績」、「コンテスト」を広報の三本柱として展開した。
- ② 大学進学志向の強まりから入学辞退者が増加傾向で推移し、入学者数は345名を獲得した。また、在籍者数は956名となった。
- ③ 情報処理の国家試験において、以下の合格実績を上げた。  
 <レベル4>
  - ・情報処理安全確保支援士 30名(全国専門学校1位)
  - ・データベーススペシャリスト 4名(道内専門学校合格者を独占)
  - ・ネットワークスペシャリスト 2名(道内専門学校合格者を独占)
  - ・エンベデッドシステムスペシャリスト 1名(道内専門学校合格者を独占)

<レベル3>

- ・応用情報技術者 84名（全国専門学校1位）

<レベル2>

- ・基本情報技術者試験 267名（道内専門学校1位。HCS取得率71.5%）

- ④ 就職活動は順調に推移し、HIUとのWスクールである大学併修科(4年制)はその特徴から11月中旬に100%内定を達成した。全体においても内定率が97.7%と好調に推移し、この実績を広報に展開した。
- ⑤ 技術レベルの評価、及び人間的な成長の観点から外部コンテストに積極的にチャレンジし、以下の実績を上げた。
- ・起業家甲子園2022北海道大会(主催：北海道総合通信局)で企業賞を受賞
  - ・セキュリティコンテスト「MBSD Cybersecurity Challenges 2022」  
(主催：三井物産セキュアディレクション(株))で全国大会である最終審査に出場
  - ・ゲームクリエイター甲子園2022(主催：ゲームクリエイターズギルド)で2作品が企業賞を受賞
  - ・SCCアプリコンペ2022(主催：(株)SCC)で2チームが優秀賞を受賞
  - ・北海道学生アプリコンテスト2023(主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会)で最優秀賞「北海道経済産業局長賞」と優秀賞「HMC C賞」を受賞
  - ・第11回全国専門学校ゲームコンペティション(一般財団法人全国専門学校情報教育協会)で準グランプリを受賞
- ⑥ 校舎保全5ヵ年計画の2年目として、2号館外壁改修工事および本校舎エレベータの耐震・制御装置更新工事を行い校舎の整備を行った。  
また、2教室(96台)への最新パソコンの導入、オンライン配信用ストリーミングサーバの増強、3教室への電子黒板導入、4教室の学生椅子更新を行い、教育設備・教育環境整備を継続して進めた。

以上